[編集発行]太田市役所広報課 〒373-8718 群馬県太田市浜町2番35号 ▶0276-47-1111(代表) FAX0276-47-1888(代表)
毎月3回発行[1日・10日・20日] 今回の「広報おおた」は1部あたり8.27円で作製しました。 制作 上毛新聞社

おおた文化財巡り

中溝・深町遺跡

中溝・深町遺跡写真

指定区分 県指定史跡
住所 新田小金井町320-3
見学時間 約15分

県内でも珍しい古墳時代前期の居館跡

古墳時代前期の居館跡を中心とする遺跡です。1万㎡が保存され、小金井史跡公園として整備されています。

発掘調査では、古墳時代前期の長方形の区画溝(東西47m、南北20m)の中で対称に配置された7.6×5.1mと7.3×4.5mの大規模な掘立柱建物跡などが発見されました。この柱穴からは、太さ31㎝の柱根や礎板が出土しています。周辺では倉庫と考えられる小規模な掘立柱建物跡も3棟検出されています。また区画溝の北45mの場所では、柱列が二重に巡る特殊な構造の掘立柱建物跡が検出されています。この遺構は外側の柱列でおよそ8.2×7.8mの大きさで、西側に石組み井戸が2基隣接していることから、何らかの祭祀(さいし)が行われたと考えられます。

出土遺物としては大量の土器や木製品があります。また掘立柱建物跡が造られる以前の住居跡からは、小銅鐸(どうたく)や鏡(内行花文鏡(ないこうかもんきょう))などの特殊な遺物が出土しています。

文化財課 ▶0276-20-7090

ものづくり大国 OTA 太田市のすごい!を紹介

登り窯で焼いた日常使いの器

日用雑器

力強い登り窯の炎で焼かれたぬくもりのある器

製品の特長は?

皆さんは登り窯を見たことがありますか? 傾斜地を利用して階段状にいくつもの窯が連なってできています。電気やガスの窯より一度にたくさんの焼き物ができるのが特長。しかし煙が大量に出るため、だんだん減少してきています。

強戸窯(ごうどがま)の島村さんは沖縄の読谷村(よみたんそん)で10年間陶芸の修業をして、今の場所に登り窯を作りました。傾斜があり人家が少なく、燃料の薪(まき)や陶芸の材料の土が手に入りやすい場所を探すのは大変だったそうです。

焼き物の作り方
①土を練って、ろくろで形を作る
②ゆっくり乾燥させ、わらやもみ殻の灰で表面をコーティング(釉薬(ゆうやく)がけ)
③登り窯を使い、じっくり高温で焼く

10分置きに薪をくべて30時間燃やし続けます。最高温度は1300℃、大変な作業です。それから火を消して、4日間かけてゆっくり冷ましてから窯を開けます。

出来上がった作品の多くは東京や大阪の店に出しています。工房の中にも器を並べているギャラリーがあります。

これからの展望は?

毎日使いたくなるような、使いやすくて力強い器を作ること。そしてこれからは地元の土を利用した焼き物作りにも挑戦したいそうです。

ギャラリーでは作品を展示販売

ろくろを使って粘土で成形

大量の作品が焼ける4室の登り窯

強戸窯

所在地 北金井町
従業員数 2人
主要製品 日用雑器
設立 平成29年7月

「広報おおた」は有料広告を掲載しています。 問い合わせ:広報課(▶0276-47-1812)
広告 広告内容については広告主に問い合わせてください。広告と市業務とは直接関係ありません。
R70 PRINTED WITH SOY INK 古紙パルプ配合率70%再生紙と環境にやさしい大豆インキを使用しています